

HACOBU

物流DXセミナーin関東

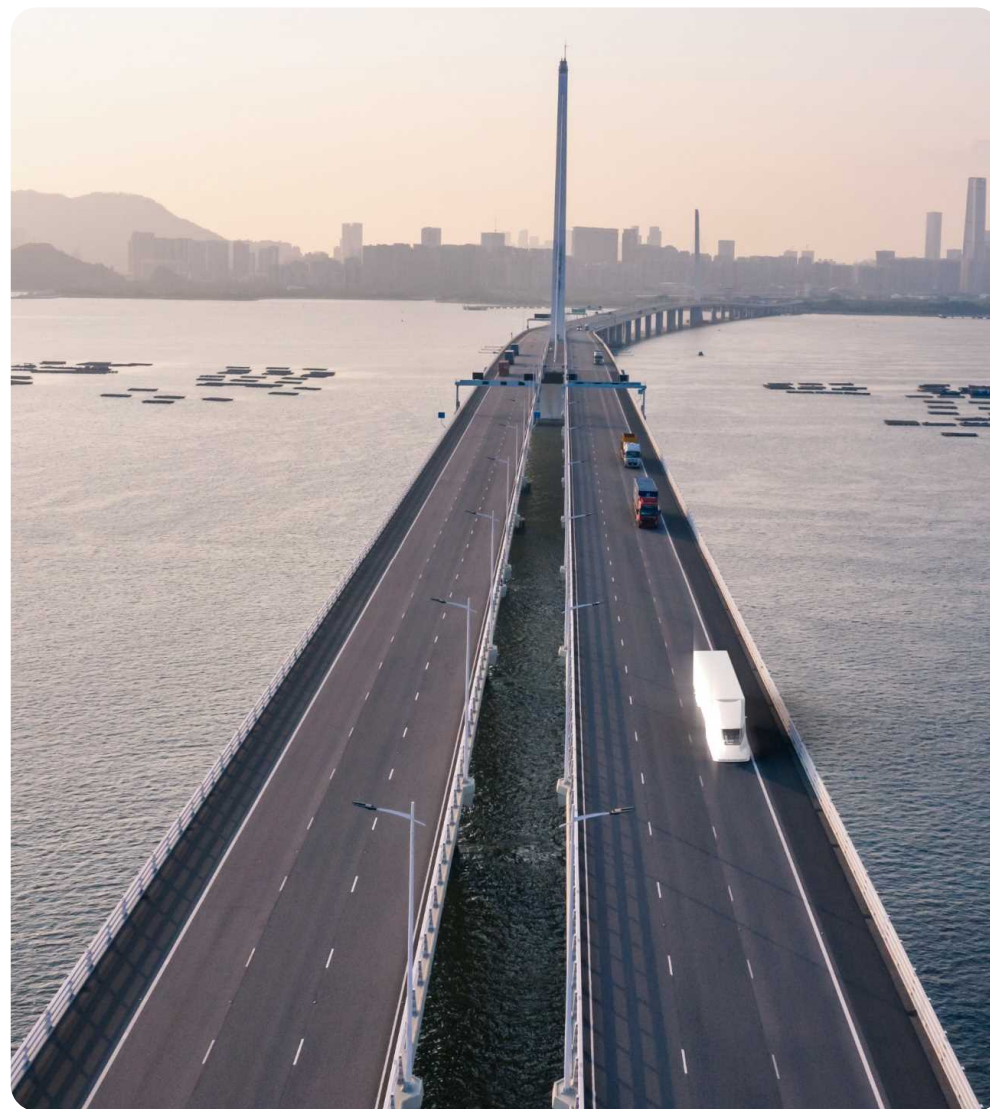
まず可視化から —
物流DXに取り組む企業の実践事例

2026年5月26日



HACOBU
STRATEGY

Confidential



株式会社Hacobu

プラットフォーム事業部 セールス・マーケティング部

北本 優人

2022年Hacobu入社。

MOVVOの導入支援担当として、数十社のお客様の物流DX推進を支援。

2025年よりマーケティング部門にてセミナー等を通じてプロダクトの価値発信を行う。

- 1. Hacobuのご紹介**
- 2. 物流環境の変化**
- 3. 各企業の物流DX取り組み事例**

Hacobuのご紹介

企業名	株式会社Hacobu
設立	2015年6月30日
ミッション	運ぶを最適化する
ビリーフ（信念）	データドリブン・ロジスティクス®が社会課題を解決する
事業内容	・クラウド物流管理ソリューション「MOVO（ムーボ）」（自社開発SaaS） ・MOVO関連システム開発 ・物流DXコンサルティング
累計資金調達額	約56億円

株主（一部）



持続可能な物流インフラを創る

物流プラットフォーム
事業



MOVO

物流DXコンサルティング

HACOBU
STRATEGY

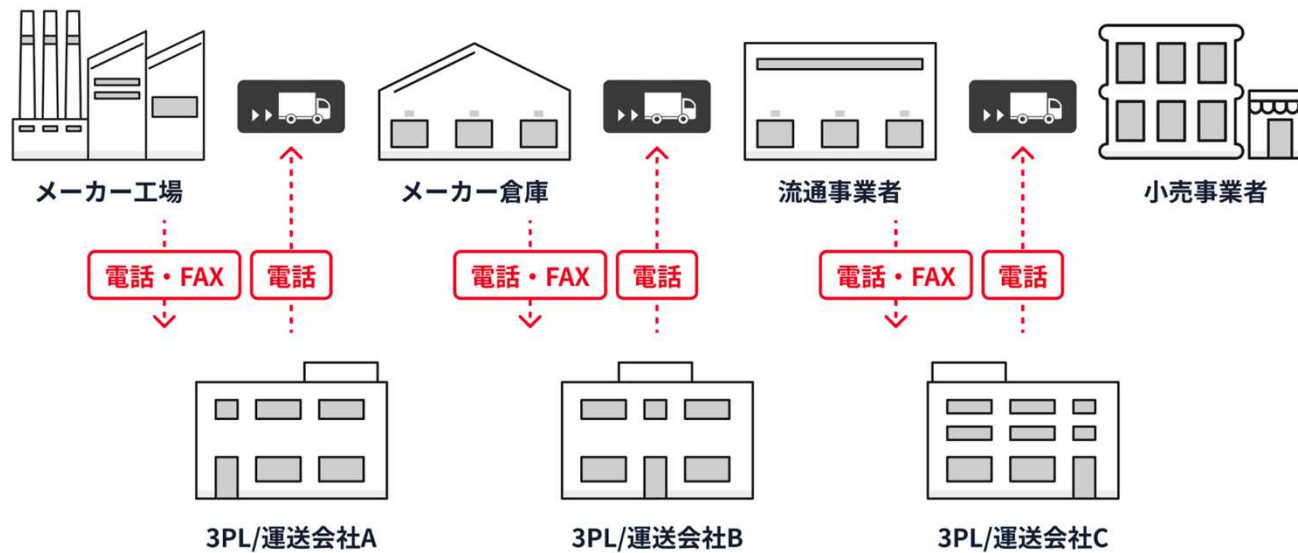
システムインテグレーション・AI導入支援

HACOBU
SOLUTION
STUDIO

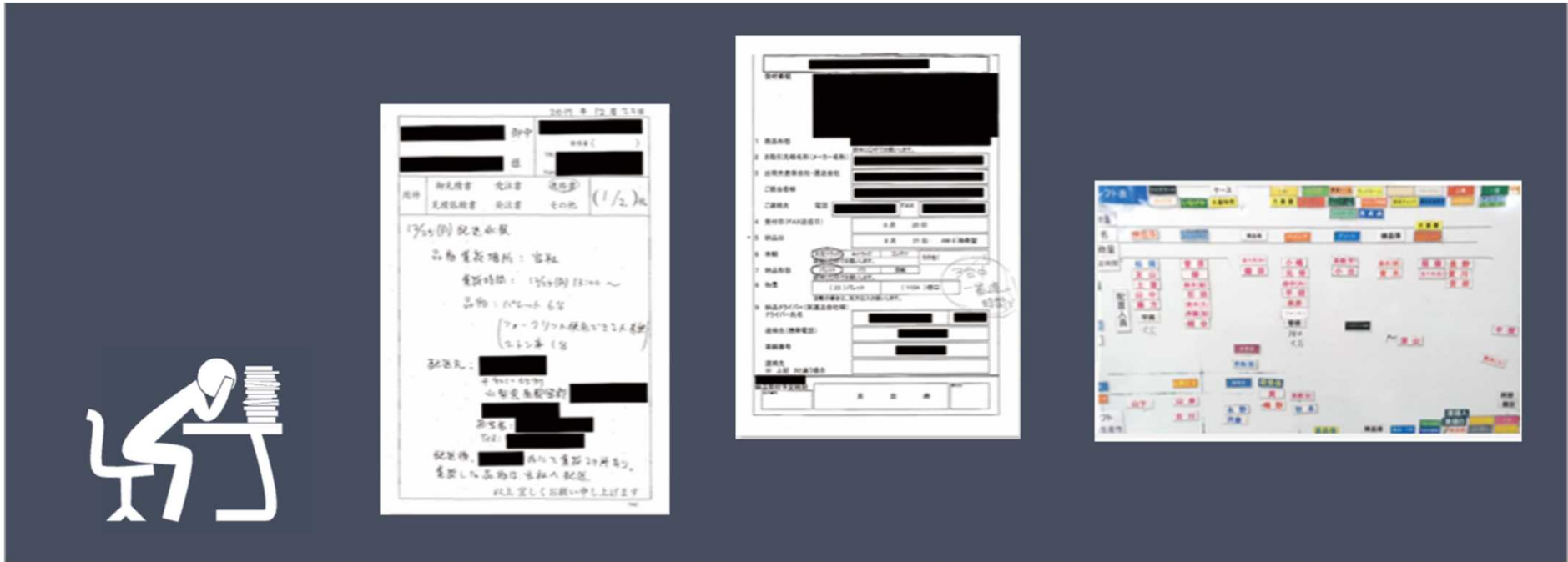
物流特化
転職エージェント

HACOBU
CAREER

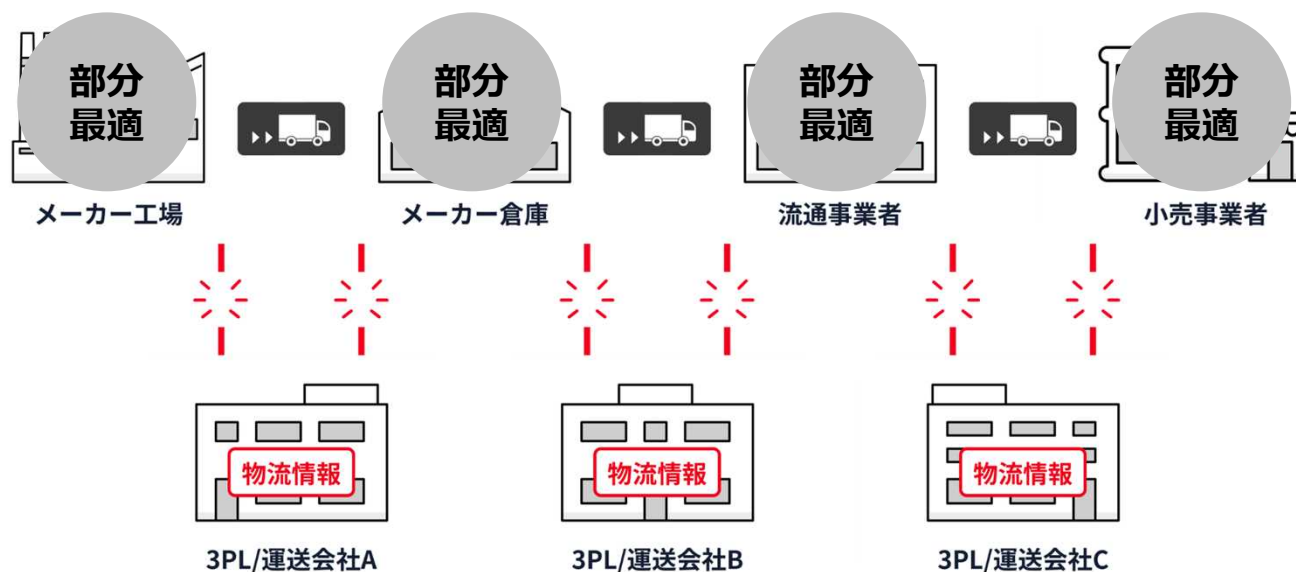
様々な関係者が存在する企業間物流



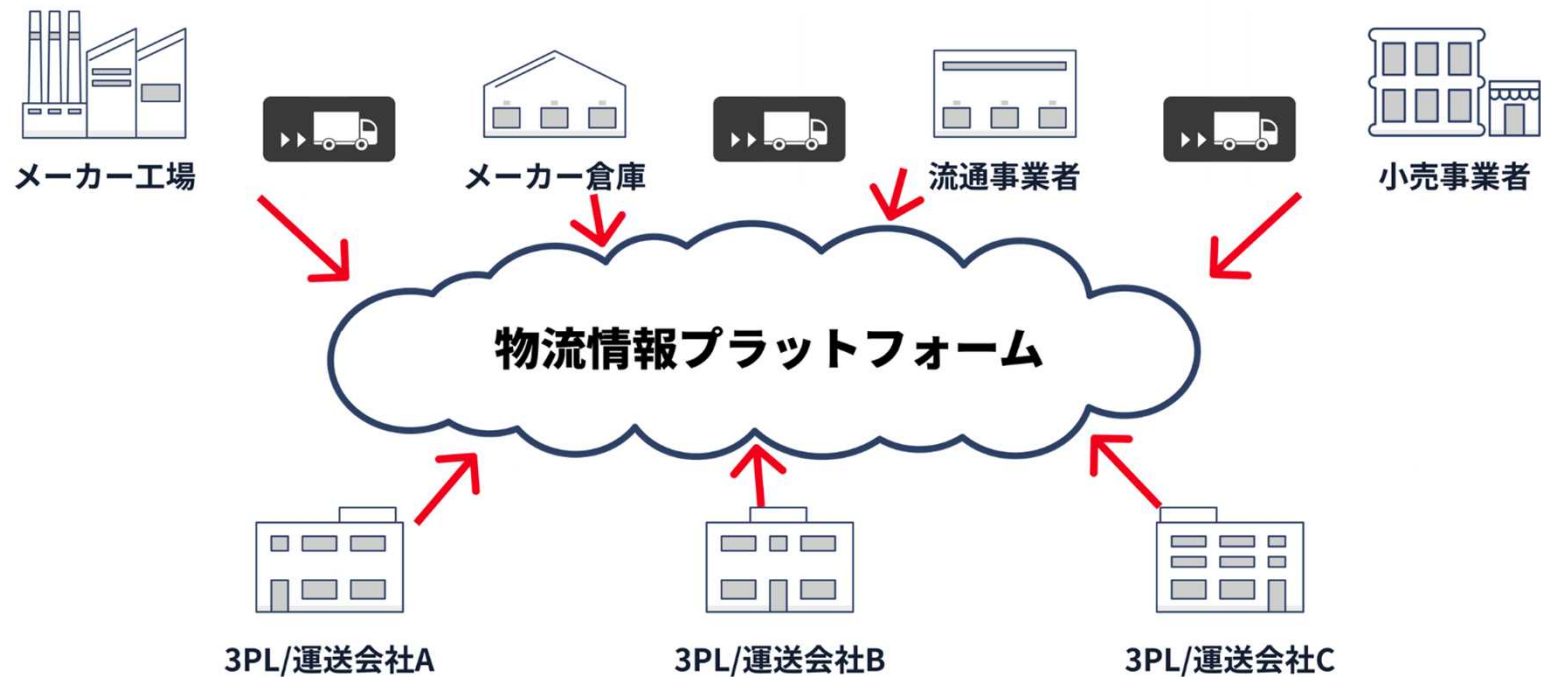
アナログなコミュニケーション



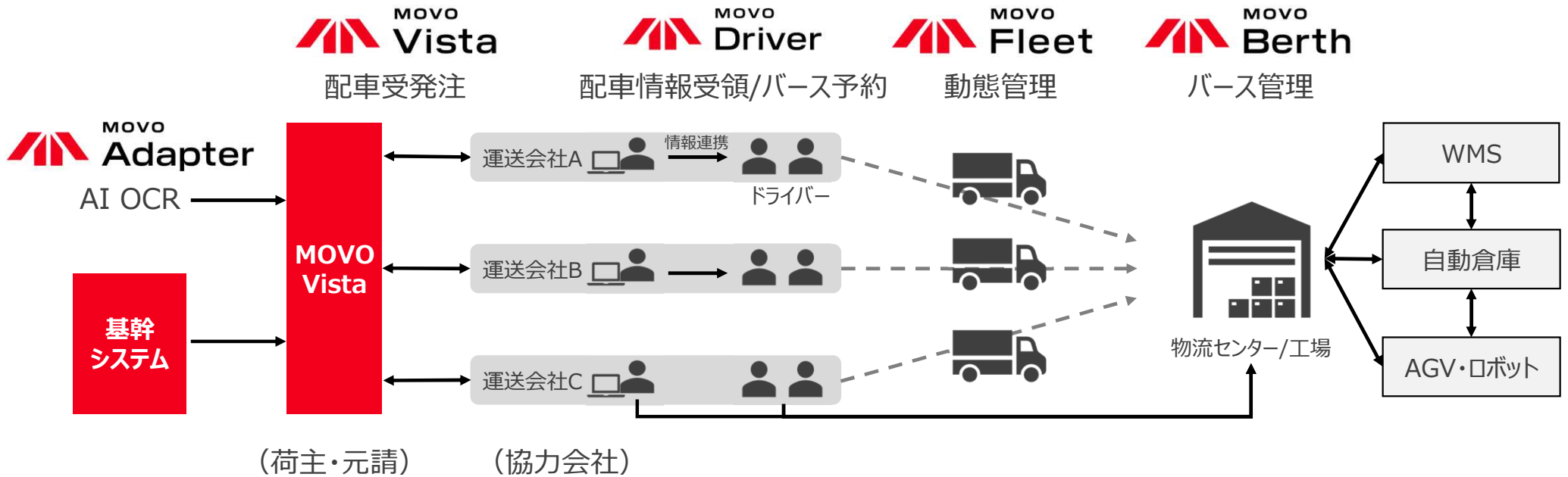
データが連携・共有できないので、全体最適とならない

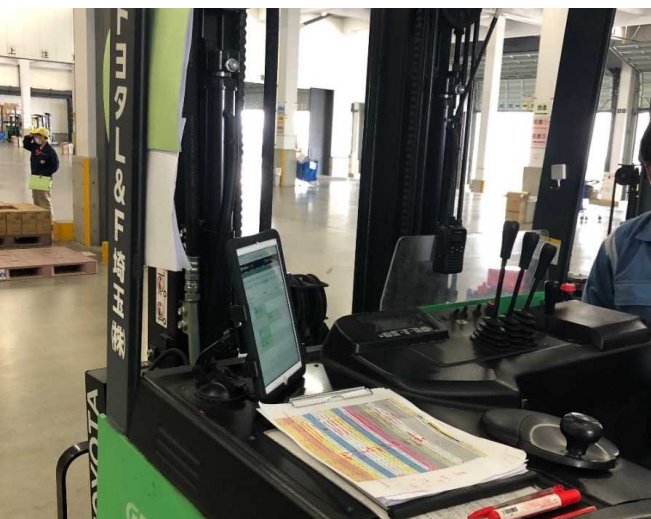
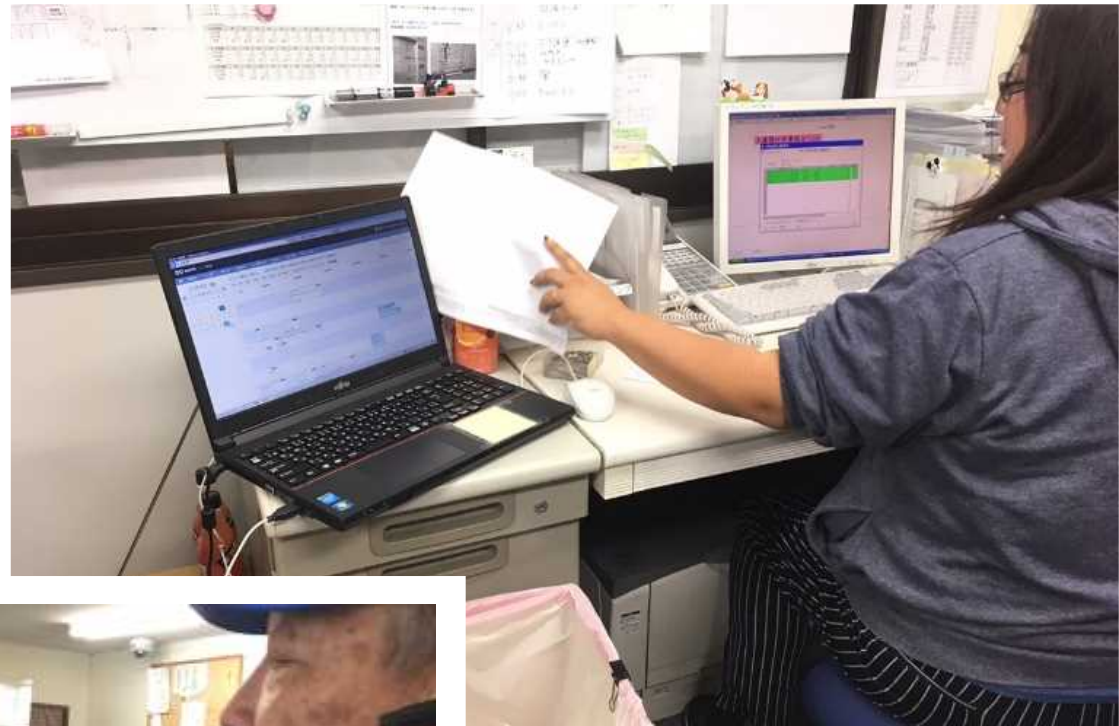


「物流情報プラットフォーム」を創り、企業間のデータ連携を可能に



現場での生産性を上げつつ、輸配送の全体像を定量的に把握できるシステムであり、AI機能が随所に組み込まれている





メーカー			小売		
<p>食品・飲料</p>	<p>日雑・製紙</p>	<p>建設・建材</p>	<p>ASKUL ARCLANDS AEON</p> <p>CGC SHOP CHANNEL スギ薬局</p> <p>pal*system ビックカメラ FamilyMart</p> <p>平和堂 YAOKO MARKETPLACE</p>		
<p>電機</p>	<p>自動車・重工業</p>	<p>卸</p>	<p>CONFEX GROUP ACCESS 日本アクセス</p> <p>NIPPAN PALTAC 三井物産流通グループ</p> <p>三菱食品 ヤマエ久野株式会社</p>		
<p>アパレル</p>	<p>化学・医薬品</p>	<p>物流・倉庫</p>			

物流環境の変化

物流危機 = ドライバー不足 × 労働時間規制 による輸送力不足への対策として、物流関連2法の改正が行われた

**物資の流通の効率化に関する法律
(物流効率化法/物効法)**

**貨物自動車運送事業法
(トラック法)**

法改正の
考え方

求めるものは
物流の効率化

- ・荷待ち・荷役時間の短縮
- ・積載効率の向上

求めるものは
下請取引の健全化

- ・適正な運賃支払い
- ・多重下請け構造の是正

主体別
法的義務

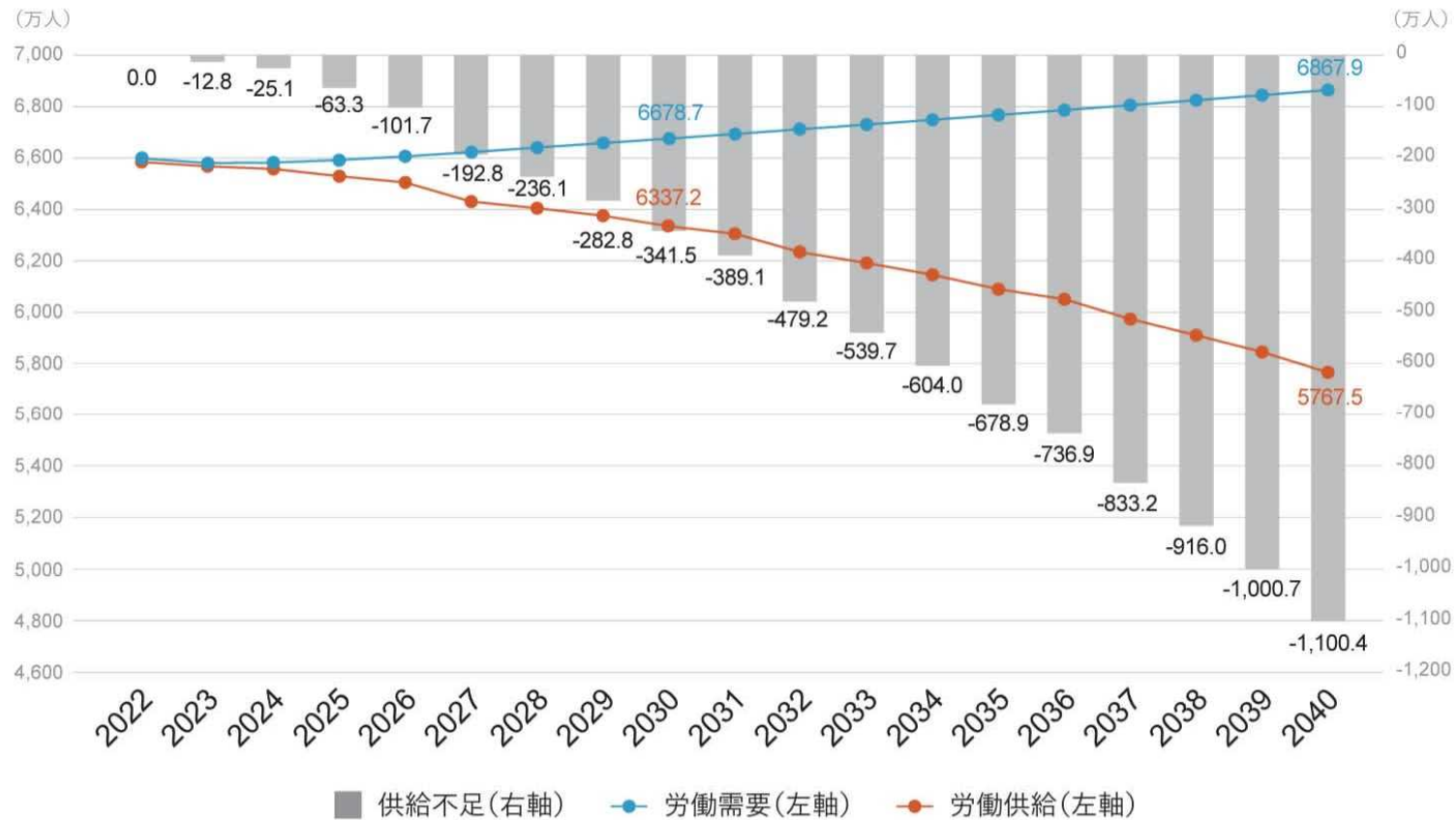
主体	努力義務		特定事業者 への法的義務
	荷待ち 短縮	積載効率 向上	
荷主	○	○	中長期計画・定期報告 物流統括管理者設置
運送事業者	-	○	中長期計画・定期報告
関連事業者 (倉庫業者等)	○	-	中長期計画・定期報告

主体	法的義務
運送事業者	運送契約の書面化
元請事業者 (真荷主から貨物引受)	実運送体制管理簿の作成
特別一般貨物自動車 運送事業者	運送利用管理規程作成 運送利用管理者の選任

法改正対応には物流DXが必要

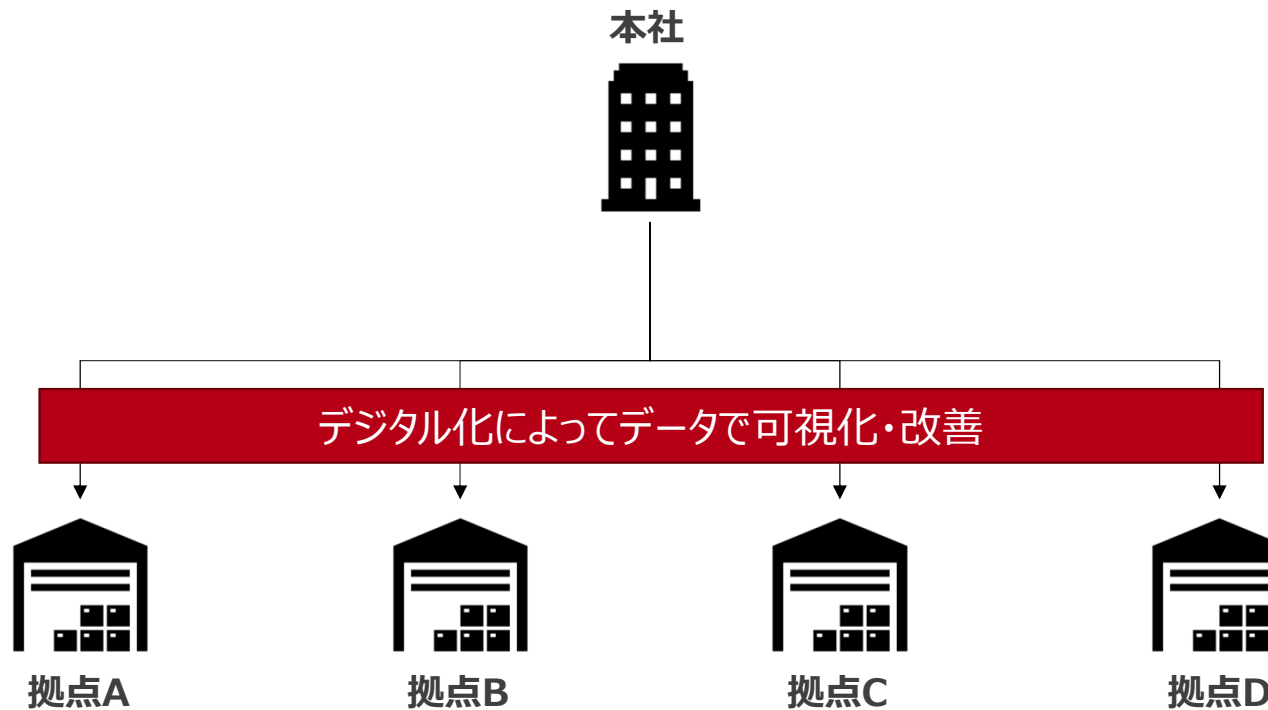
ただし、
法改正対応のためだけのデジタル化と
その先まで見据えた物流DXでは
大きな差が開いていきます

労働供給減少の進行は確実。特に若年層の流入が少ない物流は他領域に比して労働供給制約が早期に顕在化



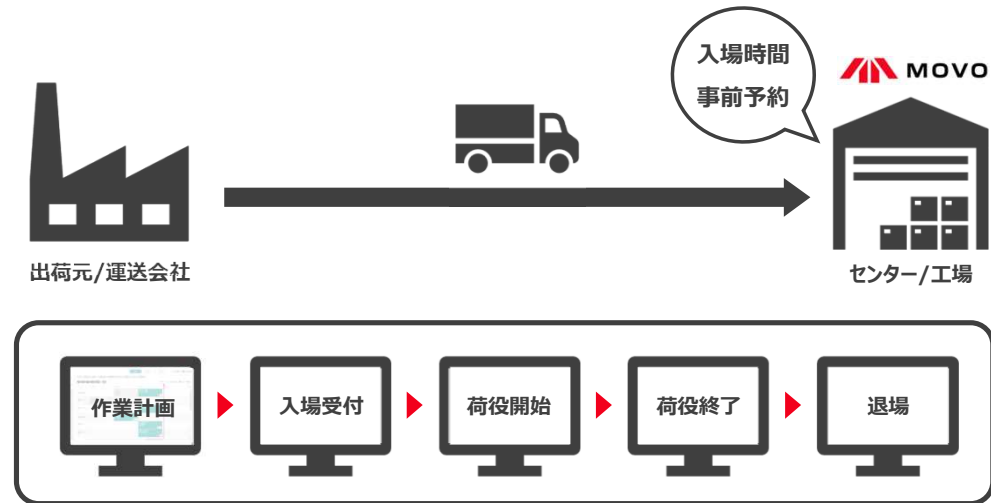
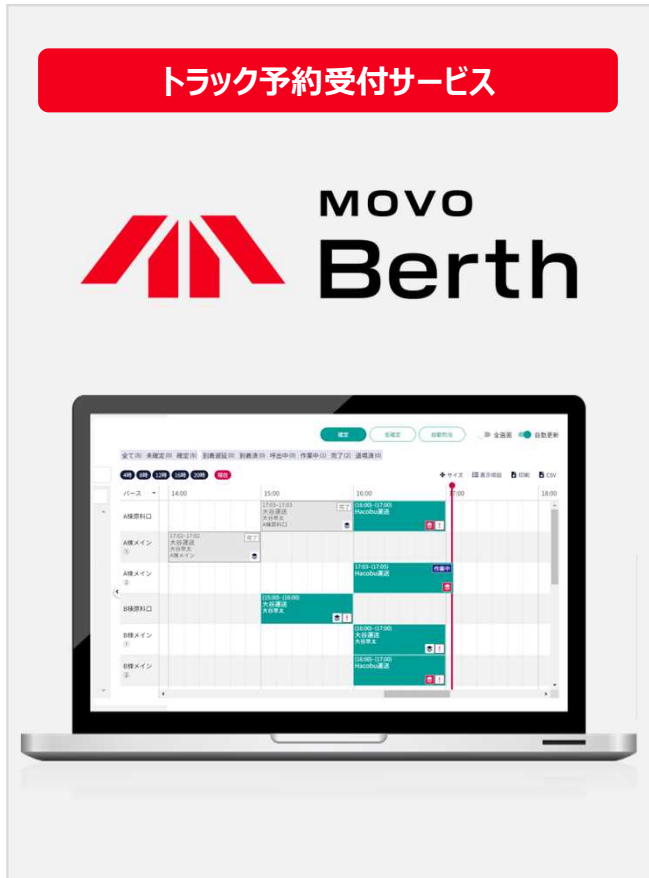
出典：リクルートワークス研究所 Works Report 2023『未来予測 2040 労働供給制約社会がやってくる』<https://www.works-i.com/research/report/item/forecast2040.pdf>

労働不足時代への移行は確実なトレンド。それを見据えたDXを前手で推進できるかが企業の競争力に直結してくる。
多くは現状が見えていないので、まずは可視化によってコンプライアンス対応 + 課題把握から一歩目を踏み出す



各企業の物流DX取り組み事例

入場予約・入退場受付によって、物流センター・工場の車両待機削減や生産性向上を支援するサービス



MOVO Berthで出来ること

荷待ち・荷役作業の削減

計画的な入出荷作業が可能となり、荷待ち・待機時間を平均63.3分削減

入出荷業務の生産性を向上

作業計画を事前に立てられ、当日はセンターのどこからでも車両到着・作業状況をリアルタイムに把握、無駄な連絡が減り業務が効率化

拠点横断でのデータ取得

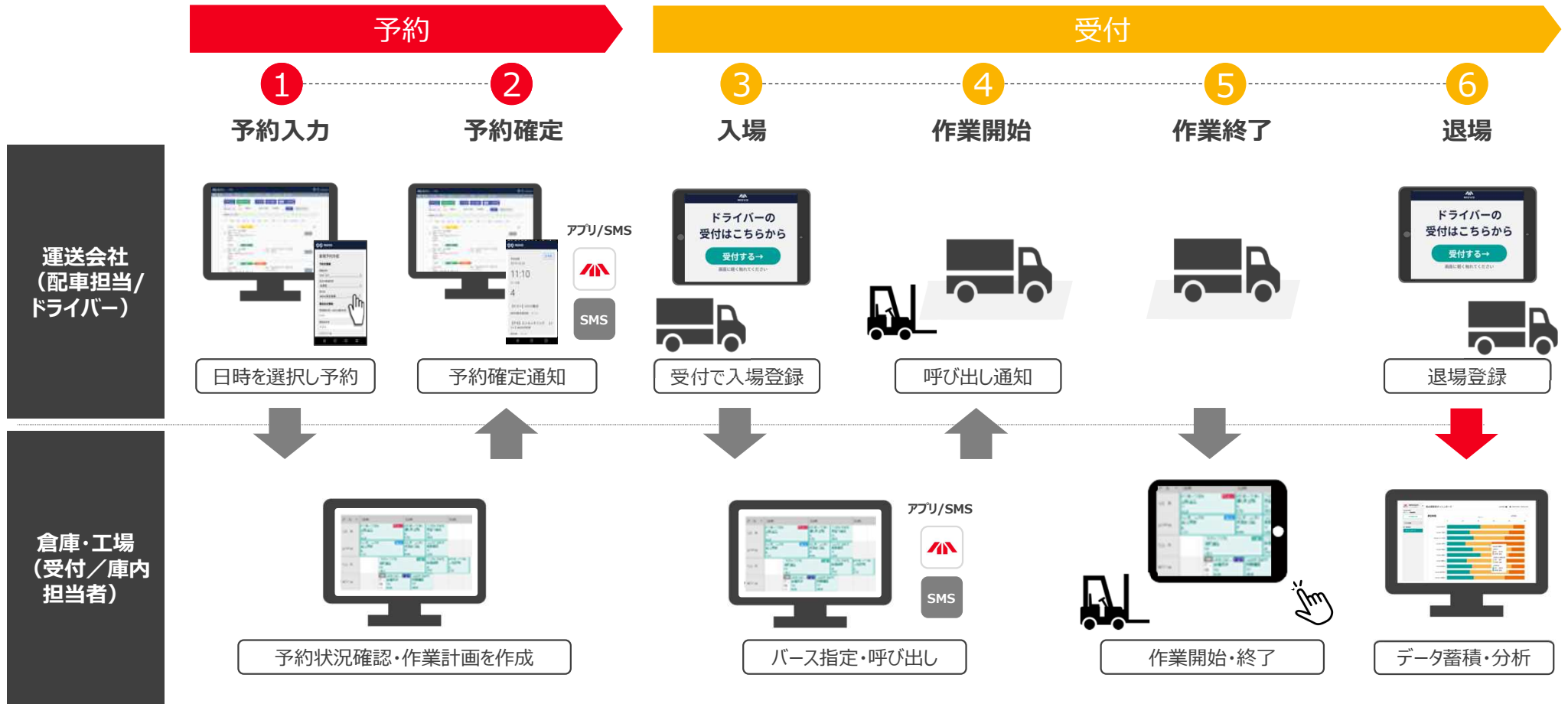
物流現場の業務改善から全社の物流改革にまで活用できるデータが取得できる

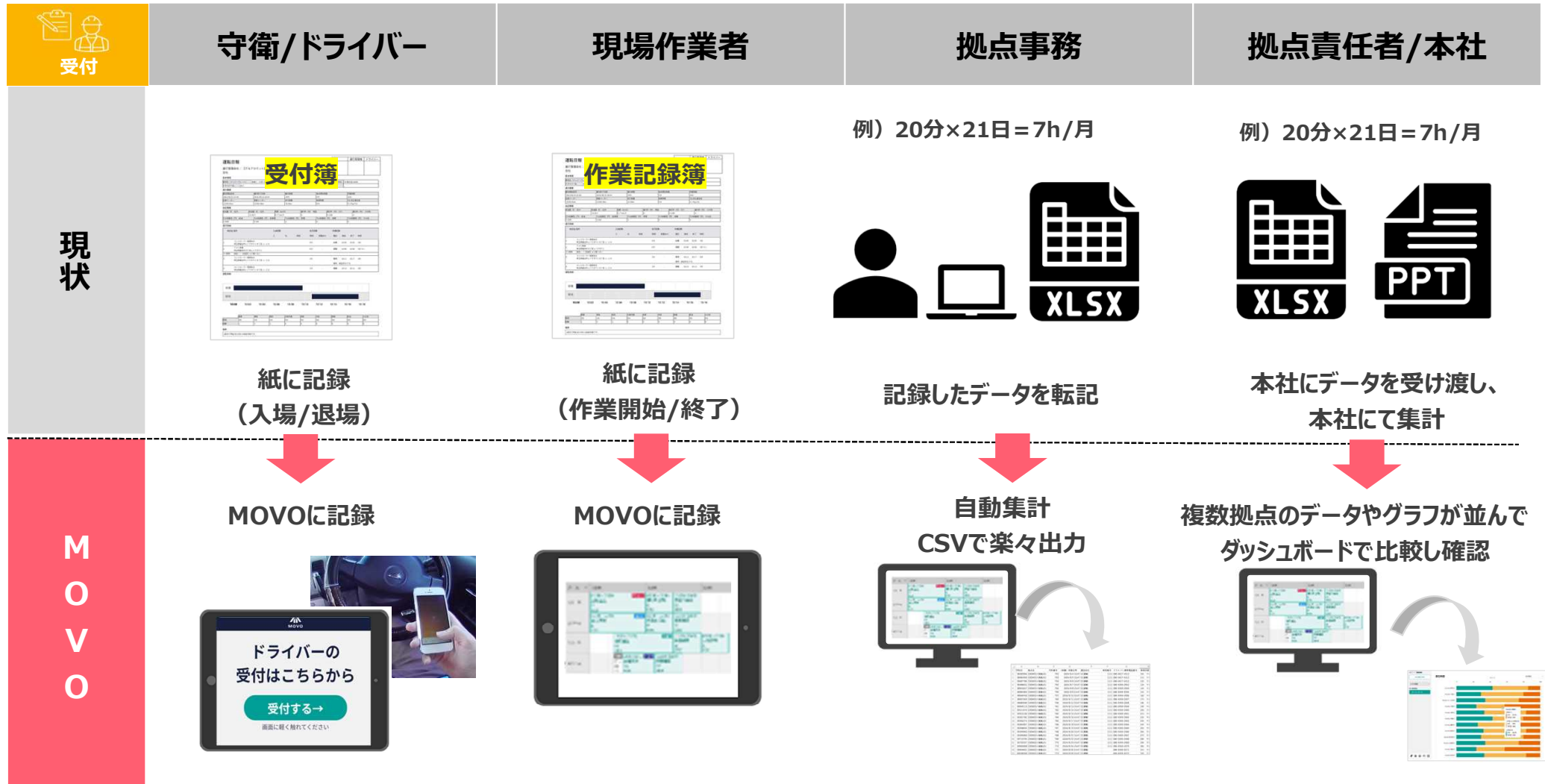
受付：紙ベースの入退場簿などをデジタルに行う機能です

予約：トラックが荷物の積み下ろしをする時刻をあらかじめ指定し予約者と双方で共有できる機能です



システム導入によりアナログな入出荷作業プロセスを脱却し、効率的な作業を実現





荷主と連携し、物流DXを推進。荷待ち待機削減と庫内保管効率30%向上



会社名/導入拠点：山藤運送株式会社/門真営業所
導入サービス：MOVO Berth
用途：出荷
利用機能：予約・受付
バース数：5バース

導入前の課題

車両待機と積込の非効率が発生していた

- 待機所の不足で、集中時間帯の路上待機がクレームの原因に
- 先着順での受付で積荷シミュレーションや効率的な保管が困難
- 関係者の都合を押し付け合い、予算や煩雑さでこれまで問題解決することができていなかった



導入後の効果

荷待ち待機削減、保管効率30%向上

- 待機時間の実績データによる改善が可能に。責任の所在も明確化し、データに基づく関係者との議論ができるように
- 予約による積荷スケジュール管理が可能に
- 予約内容に基づいた荷物の事前準備で保管効率が30%向上

現場のムダ・ロスを撲滅！「月420時間」の業務時間を削減



SBS 東芝ロジスティクス



会社名/拠点：SBS東芝ロジスティクス株式会社/関西支店大阪南デポ
導入サービス：MOVO Berth
用途：入荷
利用機能：予約・受付
バース数：68バース

導入前の課題

迫る2024年問題。現場のムダ・ロスを撲滅したい

- 受付順にバースに接車していたため混雑が発生していた
- ドライバーが受付に並び、行列ができていた
- 現場・受付・ドライバーの情報連携に時間がかかっていた



導入後の効果

2名→1名に受付人員を削減。月420時間の業務時間削減

- 事前予約で混雑を解消し現場の作業終了時間も早まった
- オンライン受付でトラックを降りることなく入場登録ができ、受付は2名体制から1名体制へ変更
- システムによる可視化で情報連携のロスも解消、420時間の業務時間を削減

花王様は、経営改革の一環として生産技術部門とロジスティクス部門をSCM部門として統合。「製造と物流の一体化」を目指し、製品出荷の完全自動化を実現した

トラック誘導と出荷指示の自動化により、滞在時間を削減



花王、豊橋工場の自動倉庫での事例
<https://hacobu.jp/case-study/13971/>





物流管掌役員等の経営層（今後のCLO/物流統括管理者）のコミットで取り組みを進める先進的な荷主企業



全国10拠点に
MOVO Berthを導入



全国9拠点に
MOVO Berthを導入

HITACHI

Reliable Solutions

全国9拠点に
MOVO Berthを導入



全国12拠点に
MOVO Berthを導入



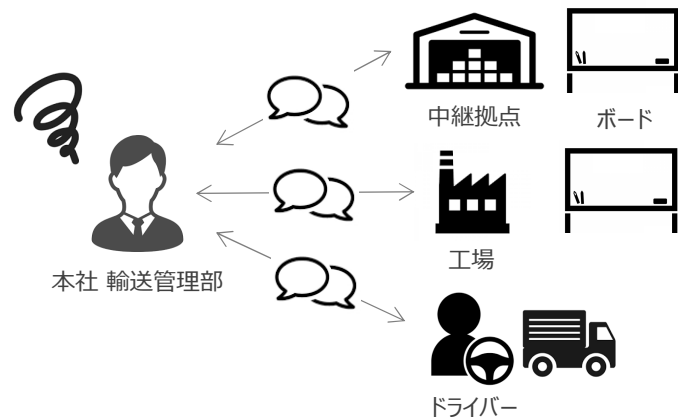
全国13拠点に
MOVO Berthを導入



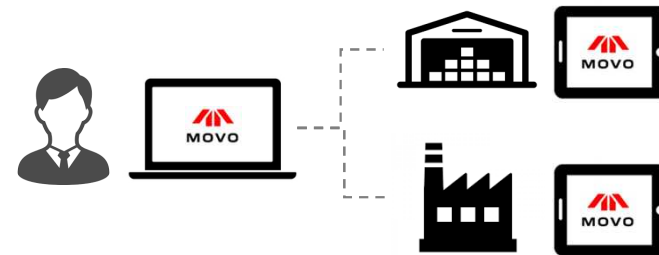
全国32拠点に
MOVO Berthを導入

ホワイトボード等で運用されていた輸送ダイヤの管理をMOVVOでデジタル化。不必要な早着が激減し待機を削減しただけでなく、ダイヤ見直し工数も大幅削減。実績データ活用によるルート改善への踏み込みも見据えている

導入前 アナログ運用により輸送ダイヤの精度にも影響



導入後 正しいバス実態把握により輸送ダイヤの精度改善



デンソー様のお声

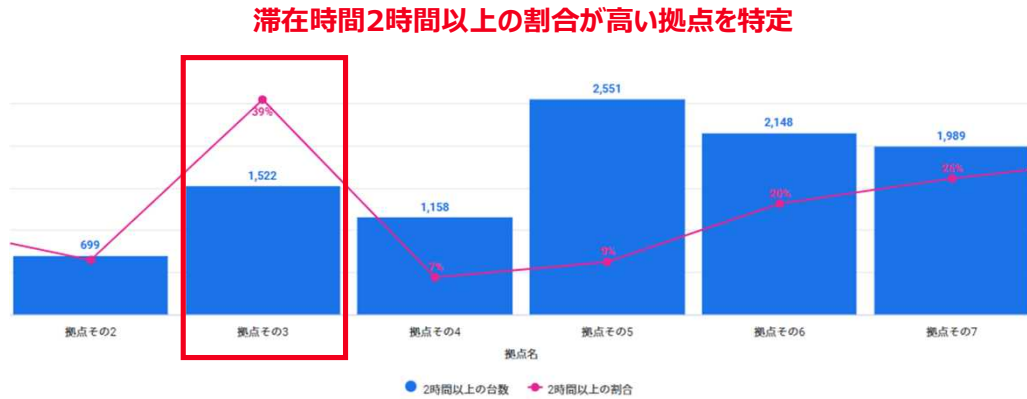
MOVVO Berthを積み地（各製作所）と降ろし地（D-Stream）両方に導入していることで、各製作所に確認することなくバスの使用状況が即座に把握できます。そのため、**輸送ダイヤの見直しにかかるリードタイム・工数を大幅に削減**することができました。

今後は**実績データをもとにした輸送効率の向上の取り組みも可能になると期待**しています。現在2箇所の製作所（積み地）を經由してD-Streamに納入するルートが多いですが、実績データを分析することで、3箇所を周るルートを組むことができるのではないかと考えています。

荷待ち・荷役時間を全社一元的に把握した上で、改善までつなげることが可能に

全拠点横断でのKPI確認

拠点横断で重要KPIを確認し、課題のある拠点をリストアップ



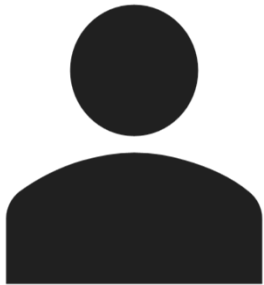
課題拠点の深堀

様々な切り口で課題拠点を深堀り、対象車両のデータをピックアップすることで、具体的な改善活動を検討できる

滞在2時間以上の車両が多い運送会社を特定



対象車両データをリストアップし、いつ、どの荷主、荷物を運送した車両かを確認



ハウスメーカー
工場担当者

導入してこんなに変わると思わなかった。初めは絶対うまく使うのは無理だ、**本社の指示でただ記録だけ取らされるツール**と**思っていました**。でも、物流事業者さんの頑張り、Hacobuさんのフォローのおかげもありますが、MOVOによる可視化がとても大きな働きをしてくれました。まず、1ヶ月で2時間以上の待機車両を0にできましたし、**導入してから物流事業者さん側から運用の改善に関するアイデアが出てきて、対話できるようになりました**。

- まずは可視化によってコンプライアンス対応 + 課題把握から一歩目を踏み出す
- 環境変化を乗り越えるには、法改正をきっかけとして先を見据えた物流DXに踏み出すことが重要

詳細資料は以下より閲覧できますので

ご興味ある方はご請求下さい

<https://hacobu.jp/form/document-cs-3industry/>

物流DX・AI導入に関しては、すべて対応いたします

HANCOBU